

【全訳】

リサとノボルは中学生で、アディティはインドから来た彼らのクラスメートです。彼らは教室で話をしています。

リサ：みんな、聞いて！ 私はついにスマートフォンを手に入れたの。今は外でもインターネットを使うことができるのよ。

ノボル：なんてすばらしい！ きみはそれをほしかったんだ。

リサ：ええ。私は出かけているとき、たとえば、天気予報とかお店の場所とか、情報をいくらかに入りたいと思うことがときどきあるの。スマートフォンはそういった場合にとても役に立つと思うわ。

アディティ：スマートフォンは本当に役に立つわよ。私は自分の国の友だちと連絡をとるために、たいていスマートフォンを使うの。それは手紙を書くのよりずっと簡単だし、電話を使うより安いわ。

ノボル：ほくはよくスマートフォンで新聞を読んだり動画を見たりするよ。スポーツニュースを読んだりサッカーの試合を見たりするのが好きなんだ。

リサ：それはおもしろそうだけど、私は印刷された新聞も好きよ。毎朝、郵便受けから新聞を持ってくるのが好きなの。

ノボル：本当かい？ でも印刷された新聞の数は少なくなっているって聞いているよ。今日日本では人々は印刷された新聞をそれほどたくさん読んでいるとは思わないな。アディティ、きみの国ではどうかな？

アディティ：ええと、私の国でも印刷された新聞の数は少なくなってきたけど、まだいくらかはあるわ。私の父は朝食のときに新聞を読むのが大好きよ。

そのとき彼らの先生のブラウン先生が3人の生徒のところに来て。彼はアメリカ合衆国の出身です。

ブラウン先生：こんにちは、みんな。楽しそうだね。何について話しているんだい？

ノボル：ええと、リサがスマートフォンを手に入れて、ほくたちはインターネットの新聞と印刷された新聞について話しています。

リサ：ブラウン先生、先生は先生の国で印刷された新聞を読んでいたか？

ブラウン先生：うん、読んでいたよ。そして、今日日本では、印刷された新聞とインターネットの新聞を読んでいるよ。

アディティ：両方ですか？ わあ、先生は本当に新聞を読むのが好きなんですね。

ブラウン先生：ところで、きみたちはアメリカの新聞と日本の新聞の間にいくつか違ったことがあるのを知っているかな？

ノボル：いいえ、知りません。それは何ですか？

ブラウン先生：たとえば、アメリカの人々はたいてい新聞売り場や自動販売機で新聞を買うんだよ。もちろん、新聞の中には、日本の新聞のようにそれぞれの家に配達されるものもあるけど、外で新聞を買うのがアメリカではより一般的なんだ。

リサ：それは知りませんでした。日本でも、外で新聞を買うことはできますが、たいていは新聞は毎日配達されます。別の違いを教えてくださいませんか？

ブラウン先生：もちろん、いいよ。日本では新聞は配達されるときたいてい郵便受けに入れられるよね。でもアメリカではそうじゃないんだ。

ノボル：ドアの前に置かれるという意味ですか。

ブラウン先生：いや、そうじゃない。それぞれの家の前の庭に投げられるんだ。絵を見せてあげるよ。

ブラウン先生は紙に絵を描きます。

ブラウン先生：これを見てごらん。新聞はたいていここに投げられるんだ。

リサ：わあ、それは大きな違いですね。

ブラウン先生：そうだね。でもアメリカの私の家には1つ問題があったんだ。庭にイヌを飼っているんだ。新聞が配達されると、いつもそのイヌがそれに向かって走って行って、新聞を引き裂いていたんだ。

アディティ：それは本当に問題ですね。どうしたんですか。

ブラウン先生：ある日、通りの近くに父が小さな白い箱を作った。newsboyに「この箱の中に新聞を入れてください」と言ったんだ。そのときそのnewsboyはそれを理解したんだ。

ノボル：それはよかったですね。でもnewsboyとは何ですか？

ブラウン先生：アメリカでは、多くの少年たちがお金をかせぐために新聞配達をするんだ。彼らが「newsboys(新聞配達の少年)」さ。

ノボル：ああわかりました。日本にも新聞配達の少年がいます。

アディティ：それで、新聞配達の少年は、今先生の家のここに新聞を置くんですね。

ブラウン先生：その通りだよ。私の家族のメンバーはみな今でも印刷された新聞を読んで楽しんでいるよ。ええと、きみはどうだい、アディティ？ きみの国ではきみたちはどうやって新聞を手に入れているのかな？

アディティ：インドでも、新聞はそれぞれの家に届けられたり、外で売られたりします。でも、私たちは高い建物に住んでいて郵便受けがないことが多いのです。それで、新聞が配達される時、ときには通りから上の階の部屋に直接に投げられることがあります。

リサとノボル：おもしろい！